

知っていますか?
札幌の冬のこと。

雪学習 NEWS

札幌市内
小学校
教諭向け

Since 2016

雪学習NEWSでは、札幌市の小学校教諭を対象に、札幌の冬についての話題や知識などの情報を、冬のシーズンを中心に、定期的にお届けします。

No.16

ウィンタースポーツ

2月24日平昌オリンピックの女子カーリングで銅メダルを獲得したLocoSolare(ロコ・ソラーレ)のみなさん。テレビにかじりついて観戦・応援していた人も多いのではないのでしょうか?今号では、LocoSolareの3選手(本橋麻里選手、鈴木夕湖選手、吉田夕梨花選手)に取材をしてきました。

LocoSolare 独占インタビュー!

カーリング選手 の準備

今号では、夏のトレーニングや、子どもの頃の話、北海道と海外の違いなどについてお話を伺いました。

(取材をさせていただいたのは8月です)



体力はもちろん、考える力も必要です

普段どのような練習や準備をしていますか?

鈴木選手: ほぼ毎日、氷上で2時間、他のトレーニングを2~3時間行っています。カーリング場は通年で氷が張られていますよ。

本橋選手: 夏は陸上トレーニング、トレッドミル(ランニングマシン)でのトレーニング、インナーマッスルを鍛えるトレーニングをしています。試合前にはストーンの癖(どのくらい伸びるかなど)を把握します。平昌オリンピックの時は、アイスとストーンのマッチングは難しかったですね。ストーンはカーリング場にあるものを使い、マイストーンと言うものはないので、アイスとストーン双方の癖を見つけることがスキルの一つなんです。

たくさんのことに挑戦していました!

カーリングを本格的に始めたのはいつからですか?

鈴木選手: 平成4年から常呂町の全小学校で、4年生からカーリングの授業が始まりました。中学3年生からカーリングを始めましたが、麻里さんに誘われた18・19歳頃から本格的に取

り組んでいます。でも、子どもの頃は基本的にはぼーっとしていたり、ゲームをすることも好きでしたよ。

吉田選手: 5歳からカーリングを始めて、本格的には中学2年生から取り組みました。私が中学1年生・夕湖が中学3年生の時から、姉(吉田知那美選手)も同じチーム。吉田家は3姉妹でカーリングをしています。

本橋選手: 小学校を卒業してからカーリングを始めました。みんな常呂カーリング協会初代会長の小栗祐治さんに誘われて始めています。

カーリング以外に何かしていましたか?

吉田選手: 冬はスピードスケート、夏は水泳をやっていました。クラブでは吹奏楽部に所属していました。

鈴木選手: 中学でバスケットボールをしていました。

本橋選手: 小学校では陸上少年団(幅跳び、高飛び)にも所属して、北海道規模の大会に出たこともあるんです。スピードスケート、柔道やバスケットボールもしていました。



好きなカーリング場は「人のあたたかさ」

北見以外では好きなカーリング場はありますか?

吉田選手: ナショナルコーチが拠点にしているカナダのカルガリー州グレンコです。毎年9

月から1・2ヶ月の合宿をしていて第二の本拠地だと思っています。皆さんよくしてくれる特別な場所です。

本橋選手: フィンランドのオーランド島に、カーリングを最初に始めた5人が造った2シートだけのカーリング場があり、造った人の愛情を感じられて好きです。歴史もある土地で、まちの人もカーリング場への愛情があふれています。

主体的な学びを生むカーリング!

カーリングは氷上のチェスと言われる頭を使うスポーツですが、小学校時代はどんな教科が得意でしたか?

吉田選手: 勉強自体が好きで、体育はもちろんですが、どの教科も好きでした。カーリングで、何かを学ぶ姿勢だとか勉強の仕方そのものを学ぶ事ができて良かったです。勉強が好きだったということもありますが、長時間勉強をするというわけではなく、遊びたいからそのために宿題を30分

で終わらせようとか、そういう時間の使い方をしていました。

鈴木選手: 私は短期集中型です。「ここまでやる」と決めたら、一週間前くらいから集中してやる感じです。目標を立てたら、それは絶対やろうとは心がけています。麻里さんが、いつも個性は大事だと言ってくれます。

本橋選手: 長年、1年の2/3を一緒に過ごしているので、お互い個性を理解できていると思います。

鈴木選手: LocoSolareは皆が個性的で、麻里さんのおかげでのびのびやらせてもらっています。ゴーイングマイウェイ。



本橋麻里選手

吉田夕梨花選手

鈴木夕湖選手

対話的な学びを生むカーリング!

カーリングの試合では、集中することが重要だと思えますが、集中力を鍛えるために何かしていることはありますか?

吉田選手: 試合は2時間半から3時間かかるので、集中力は続きません。スイッチのON・OFFの切り替えが重要です。マイクで声が拾われていないときは、カーリング以外のことを話していることが多いです。

鈴木選手: 観客に知っている人を見つけたり、平昌オリンピックの3位決定戦では男子選手がすごい声で応援してきて笑ってしまいました。

本橋選手: 以前とはちがって、コミュニケーションのスキルが選手に求められています。カーリングの日本代表はチーム単位で選定していますが、これも普段からコミュニケーションが取れている選手同士の方が良いという考えからです。

鈴木選手: 海外のチームは、ON・OFFの切り替えがとても上手です。そういうのを見て、大事なんだということがわかってきました。

本橋選手: 海外チームは、仕事をするときには仕事をして、休むときはしっかり休む感じですね。カーリング選手だけではなく、国民性・教育のおかげで小さい頃から根付いているのだと思います。

カーリングもアクティブ・ラーニング!

学校現場でもコミュニケーション能力が重要視されています。今は子供同士がコミュニケーションを取りあって学ぶアクティブラーニングに変わってきています。

本橋選手: ミーティングは確かに多いです。選手が自主的に必要だと思った時にはミーティングを行っています。ポジションが違うから見えているところも違います。

吉田選手: 話していくうちに、何となくまとまってくし、まとまらなかった部分は氷に乗ってやってみようということになったりして、それで答えが見つかっていきます。大きな目標が1つあるので、そこに向かって、じゃあどれが良いか、という話し合いになります。

本橋選手: まさにチームもアクティブラーニングになっています。

理想のミーティングですね。それは意識してミーティングを多くしよう、意識して試合中に声をたくさん出して行こう、というわけではなく、自然となっていくのでしょうか。

吉田選手: 最初はコミュニケーション自体が苦手でした。練習というか、意識的にコミュニ

ケーションを取るようにして、自然と慣れてきた感じですね。

本橋選手: 子どもの頃、学校の授業では、手を挙げて自分の意見を発言するというのが自分にとってものすごくプレッシャーでした。答えが間違っていたらどうしようとネガティブに考えがちでしたが、そこから意識的に、気にせず話せるようにしないといけないというところからのスタートでした。意見が間違っているとかではなく、一人ひとり気付くことが違いますし、一つの大切な意見という意識でやっています。



カーリングもIT化しはじめています

カーリングでもAIをつかった戦術の解析やインフォマティクス(情報科学)的なものがあると聞きました。最近、小学校では、授業で簡易的なプログラムを作るような時代になっています。

本橋選手: それは大事かもしれないですね。
吉田選手: ニュースで観たことがあります。高校生になるとVRを作るので、その初期知識として小学校の頃から勉強するということみたいですね。

そういった狙いがあります。このように、今後は情報科学教育がすごく進んでいます。将棋などではAIをつかった戦術の解析があるようですが、カーリングではいかがですか?

本橋選手: AIはありますが、選手は使っていないと思います。でもデータ収集はしています。
鈴木選手: 今、データ収集の分野はすごいと思います。専門的なアナリストがいて、選手のデータを集めています。

本橋選手: データの販売を目的としてデータ収集をしている人もいます。チームでしっかりデータ収集をしているところもありますが、大会の運営が全てのデータを持っているので、運営側もデータ販売をしていますね。データというのは嘘が無いですし重要だと思います。

試合中にも、収集したデータは活用するのですか?

本橋選手: 試合中には販売されているデータはあまり使わないですね。自分達で集めたデータを活用しています。

鈴木選手: 相手チームの情報をもっても、チームのスタイルを捨てて相手チームにあわせる、またはスタイルは崩さずに試合をするということになるとは思いますが、まだどちらが良いかともわからないですね。これから変わりそうな雰囲気はあります。

本橋選手: 何点差で何エンドのときに弱いだとか、明確にそういったデータが出てきまうと、チームとして対策をとることはできやすいですね。でも、実際には人間がやることなので、データが全てというわけではないと思いますが、これから発展していくのかなと感じています。

世界ナンバーワンの雪対策!

試合でいろいろな国に行く機会があったと思いますが、雪環境などで北海道と違いを感じますか?

鈴木選手: 北海道は雪が多いと思います。北海道と同じくらい寒いところへ行きますが、北海道と同じくらい雪が降るところはなかなか無いですね。

本橋選手: 海外へ行くと肌が痛いぐらい乾燥しています。日本は保湿されているからか過ごしやすいです。特にカナダのエドモントンは肌を刺すような痛みがありました。

鈴木選手: スコットランドの普段雪が降らないところに雪が降り、交通が機能しなくなって大変な目があったことがあります。東京のような感じですね。試合時間に往復バスが出て

いたが、遅れそうになり、着いたら試合の時間になっていました。

吉田選手: ただ、着いても相手のチームも来ていなく、何時から試合する?と話し合いました。

鈴木選手: 北海道では雪を何とも思っていなかったが、ちょっとの雪でも影響がある国に比べ、対策がされていてすごいなと思います。

本橋選手: 北海道が一番雪に対策が取られています。

吉田選手: 雪が降っても交通が乱れない、安心感があります。

鈴木選手: こんな少ない降雪でもこんなに影響があるのだということを実感しました。

最後にメッセージを

本橋選手: 全日本選手権が来年の2月に札幌で開催されシード権があるので出場します。応援をお願いします。

今回、LocoSolareのみなさんと1時間ほどお話をすることができました。カーリングのお話でしたが現在の学校教育とつながるところや共通のところがかなり大変興味深かったです。本橋さんはお子様もいて、これからの学校教育にとっても関心をもっていました。アクティブラーニング、プログラミング、コミュニケーションと現在、学校が目指している教育は、カーリングにおいてももちろん、未来を担い、世界に羽ばたく人になるために重要だとおっしゃっていたのが印象的でした。お忙しい中でしたが、お時間を割いていただき、貴重なお話をいただきました。大変ありがとうございました!

※雪学習ニュースレター第11号においてもカーリングを取り上げています。

Q&A Q. 除雪機械を運転するには?

A. 公道を運転するためには、大型特殊自動車免許または大型自動車免許などを持っている必要があります。また除雪作業を行うためには、機種によっては車両系建設機械運転技能講習の修了も必要となり、さらに、札幌市の除雪作業に従事する場合は札幌市除雪機械技術講習会といった講習会の受講も必要となります。大型特殊自動車免許は普通自動車免許と同じく18歳から取得することができます。大型自動車免許は21歳から(自衛隊員は19歳から)取得することができます。



除雪グレーダ



授業をサポートする資料は、**ここ!**

このニュースレターや冬や雪に関する指導案等は札幌市役所HPから、ダウンロード可能です。

【ホームページ】<https://www.city.sapporo.jp/kensetsu/yuki/yukigakushu/>

【発行・お問合せ】札幌雪学習プロジェクト事務局(札幌市建設局雪対策室事業課) TEL:011-211-2662 FAX:011-218-5141

札幌雪学習 検索

雪に関する写真や動画等、いろいろあります!